

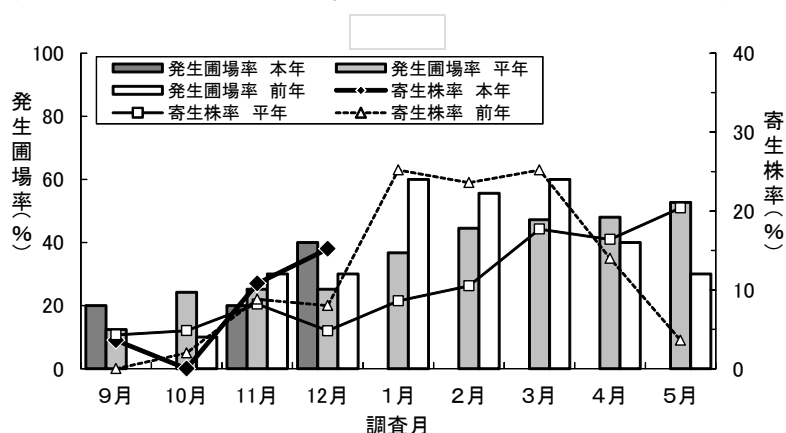
# 平成29年度 病害虫防除技術情報 第6号

平成29年12月27日  
大分県農林水産研究指導センター  
農業研究部

## イチゴハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）の防除徹底について

11月以降、ハダニ類の発生に適した乾燥傾向の気候が続いており、病害虫対策チームが12月中旬に行った巡回調査では発生圃場率40.0%（平年25.2%、前年：30.0%）、寄生株率15.2%（平年：4.8%、前年：8.0%）と平年に比べ高い状況が続いています。

向こう1ヶ月の気象予報によれば、本虫の発生に好適な乾燥条件が続くと予想され、ハダニ類の発生が継続すると予想されます。発生が見られた圃場では、速やかに防除を実施して下さい。



### 防除対策

- (1) 本虫の増殖力は高く、寄生密度が上昇してからでは防除が困難となるため、ルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努め速やかに防除を実施する。
- (2) 本虫は薬剤抵抗性が発達しているため、天敵（カブリダニ類）を利用する。
- (3) すでに発生が認められている場合、気門封鎖剤等により防除を徹底しましょう。
- (4) 本虫は、紫外線を嫌って下葉の裏に多く生息する。気門封鎖剤は薬液が直接虫にかかると効果がないため、薬液が葉裏にかかるように丁寧に散布する。また、短期間に複数回散布すると効果が高まる。
- (5) カブリダニ製剤等天敵資材の導入にあたっては、薬剤によっては長期間天敵資材に悪影響を及ぼすものがあるため、薬剤の選定にあたっては十分に注意する。
- (6) 抵抗性個体群の出現を回避するために、薬剤はローテーション（輪番）使用する。

使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jpnpn.ne.jp/oita>）

